

OSAKA IBARAKI Campus Master Plan 2018 Ver.1

SUMMARY

大阪いばらきキャンパスマスタープラン2018 Ver.1 / 概要版

立命館大学のキャンパス創造

キャンパスは街である

「学生・教職員」が参画する街づくりを進めます

立命館大学では、教育改革とキャンパス整備を総合的に進める「キャンパス創造」に取り組んでおり、学生・教職員の教学・研究・学生生活を支える良好なキャンパス環境・空間の具体化に向けて、キャンパスで生活する学生・教職員が参画する機会を設けながらキャンパスマスタープランを策定し、その具体化に向けた検討を進めています。

立命館大学の キャンパスマスタープランとは

キャンパスマスタープランは、アカデミックプランを支え、中長期的な視点で良好なキャンパス環境を実現するために、キャンパス計画のビジョンやフレームワークを定めるものであり、具体的なアクションプラン策定の際の指針として運用する。なお、アカデミックプランや経営戦略等の時代に応じた変化に対応する為、キャンパスマスタープランは定期的(5年程度)に更新を行いながら継承されるものである。

(全キャンパス共通)

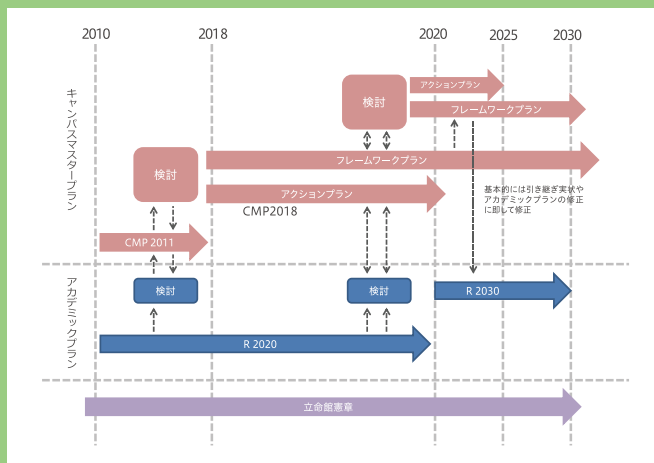
キャンパス整備の空間的コンセプト

1. 多様なコミュニティ形成を支える空間整備
2. 優れた学生・研究者を育成する国際基準の教育・研究・文化・スポーツ環境整備
3. 高いQOL*が支える優れたアメニティや自然環境、エコロジー、防災への配慮
4. 国内外・地域への発信・貢献の場の整備とシステムの構築
5. 歴史・文化的コンテクストを踏まえたキャンパス計画

* Quality of Life の略称。生活の質。

計画の実現に向けた検討と方策

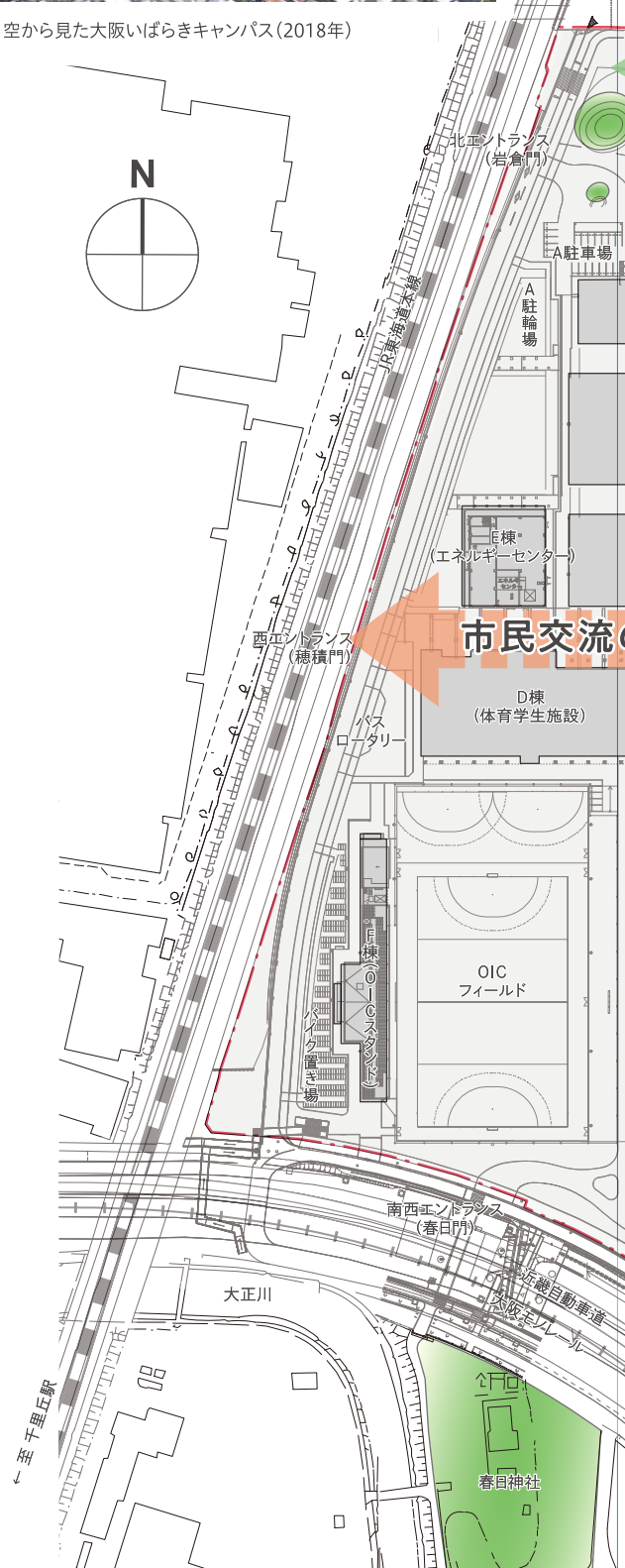
- フレームワークプラン(15~30年スパン)による長期的な計画方針の検討
- アクションプラン(5年サイクル)による計画の実行に向けた短期的な検討
- リーディングプロジェクトの活用による複合的な検討の遂行
- 各方針の整合性を保ちながら計画的かつ総合的な検討
- 関連部局と連携しながら方針の検討を深める
- 現状やニーズの把握

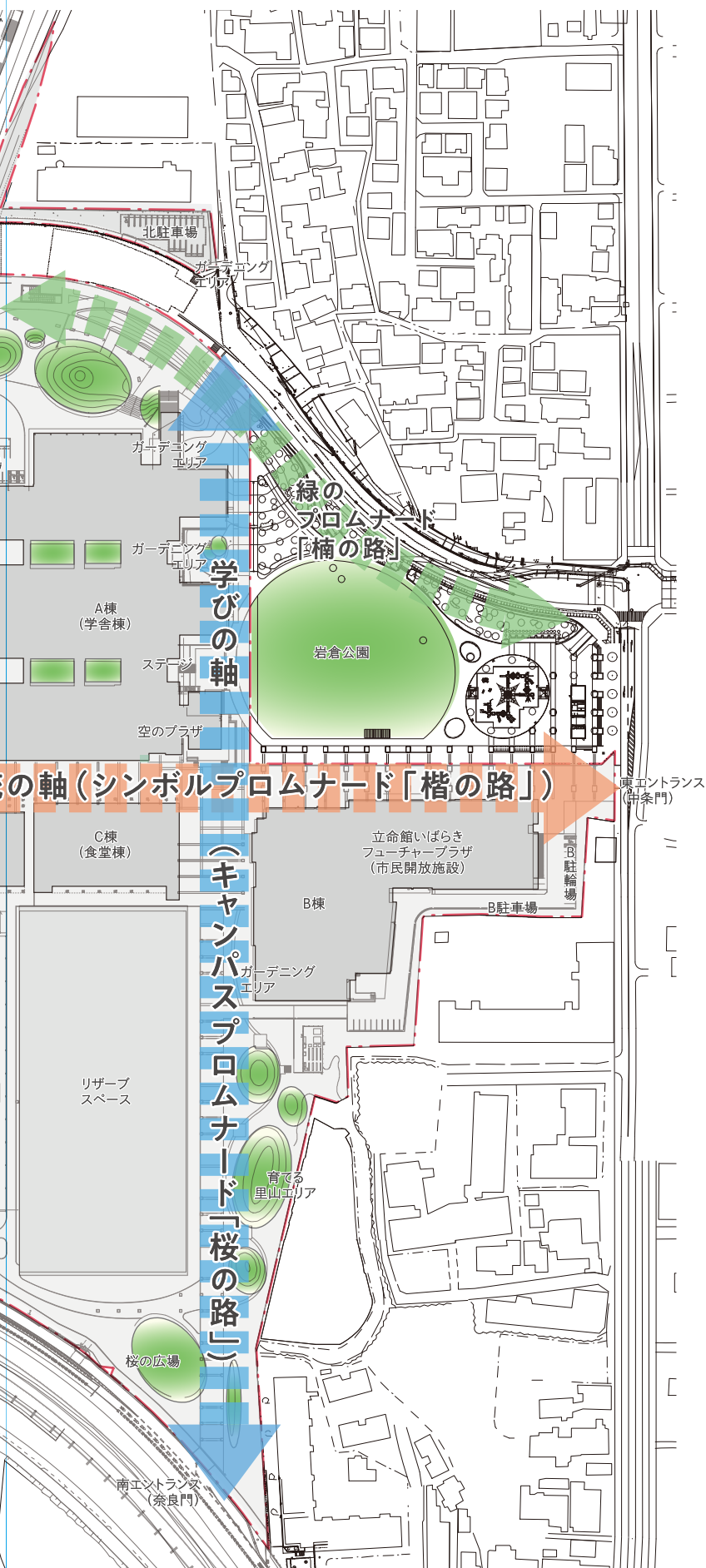


建設事業に求められる時間を考えアクションプランのベースとなるフレームワークプランは15~30年スパンを見据えつつ、アクションプランと同じ5年サイクルで確認、更新する。



▲ 空から見た大阪いばらきキャンパス(2018年)





大阪いばらきキャンパスの教学コンセプト

アジアのゲートウェイ

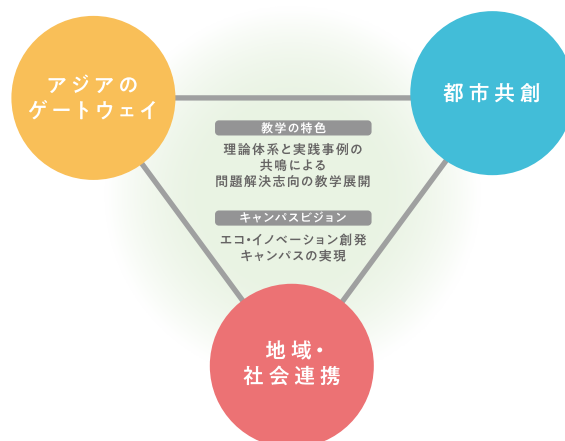
世界の成長センターであるアジアにおいて、日本の経験と知の蓄積を活かし、アジアから世界へ、世界からアジアへ、人と人、知と知を繋ぐゲートウェイとしての役割を目指す。

都市共創

都市に蓄積する多様な人材や組織をつなぎ、都市の中に点在するポテンシャルを引き出すことによって、新たな価値を目指す。

地域・社会連携

地域・社会の課題解決を教育・研究テーマとして取り組むとともに、共同した多様な活動を通じて、相互の信頼関係を育み、豊かな地域・社会の創造に取り組む。



大阪いばらきキャンパスの空間コンセプト

教学コンセプトを反映するために、大学スケール・都市スケール・環境スケールの3つのスケールにまたがる多様な特色を持たせ、エコイノベーション創発キャンパスを目指す。

環境スケール

都市スケール

■開かれたキャンパスの実現

キャンパスには塀を設けることなく、防災公園との連続性を意識したランドスケープで、多様な知が集う地域・社会に開かれたキャンパスを目指します。

■まちと調和したキャンパス

キャンパスには塀を設けることなく、防災公園との連続性を意識したランドスケープで、多様な知が集う地域・社会に開かれたキャンパスを目指します。

■環境配慮と安心・安全の追求

エコ・イノベーションキャンパスの実現に向けて、環境負荷軽減に取り組み、CASBEE(建築総合性評価システム)の最上位Sクラス評価を目指します。

大学スケール

■「つながり」を意識した施設配置

学舎棟および市街地整備施設を連絡通路でつなぎ、各施設へのアクセスを容易に、雨に濡れることなく移動が可能です。

■学びの軸に沿ってコンコースを配置

学舎棟低層階には幅約10m、長さ約200mのコンコース(大廊下)が南北(学びの軸)に走り主動線とあるとともに、学生同士、学生と教員とのコミュニケーション空間としても活用します。

■キャンパス全体を ラーニングプレイスに

キャンパス各所に目的を持った学びの空間(コモンズ)を豊かに配置するとともに、全館無線LANで、キャンパスのどこでも学びの場となる環境を整備します。授業外のグループでの学びなど、新たな学びのあり方の検討とあわせて、コモンズ空間の具体化を図ります。

フレームワークプラン

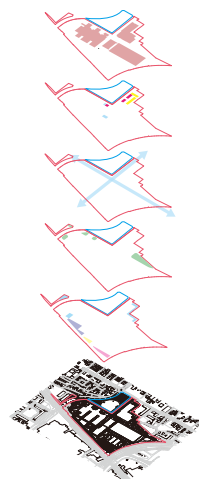
2018～2045年までの中・長期的な検討課題。

キャンパスマスタープラン(CMP)にて方針を示し、15～30年スパンで検討を継続。

1. ゾーニング・建物配置
2. 交通
3. パブリックスペース
4. 建築デザイン
5. ランドスケープ
6. 安全・安心
7. 環境配慮

フレームワークプラン検討の際に
踏まえるべき事項・前提条件

- ▶ アカデミックプラン
- ▶ キャンパスにおける法的条件
- ▶ キャンパスの現状把握
- ▶ ニーズの把握
- ▶ 評価基準の設定



部門別課題が多層レイヤで構成されているイメージ図

FRAME
WORK
PLAN

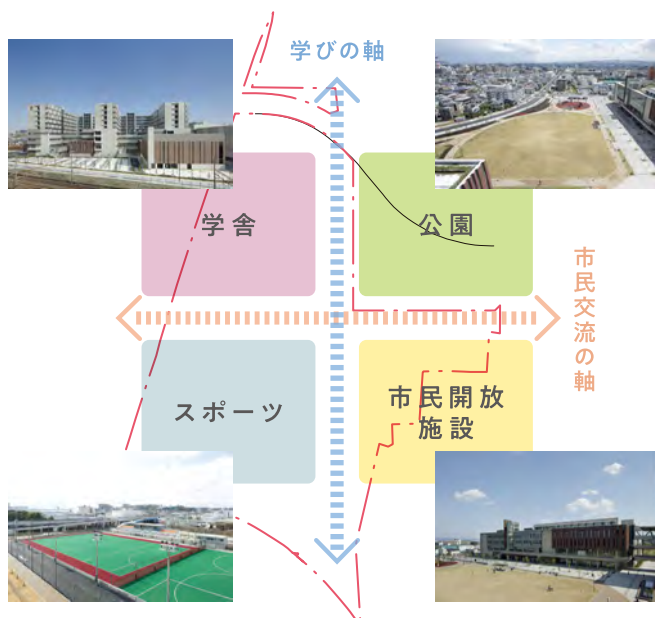
1. ゾーニング・建物配置

長期的な敷地計画においては、JR 茨木駅に近い北側から建設を進め、南側をリザーブスペース（将来建設用地）とすることが現実的である。そのため、将来にわたって教学・研究施設が展開する方向である南北軸を「学びの軸」と設定し、教室や研究室などの機能を結ぶ軸とする。

一方、周辺市街地の歩行者にとって利用しやすい接道面は北東側に限られ、特に東側に広い市街地が広がっている。そのため、市民のアクセスは主に東側からを想定することが合理的である。そこで、東側に接道する東西の軸を「市民交流の軸」として設定し、他の施設よりも地域に開放されやすい図書館やレストラン、また食堂や体育施設などを結ぶ軸とする。

考え方

- 十字型(学びの軸と市民交流の軸)の空間骨格による明確なゾーニング計画
- 自立性を保ちながら、まちに開かれた場づくり
- 持続可能なキャンパスの実現に向けた建物配置計画



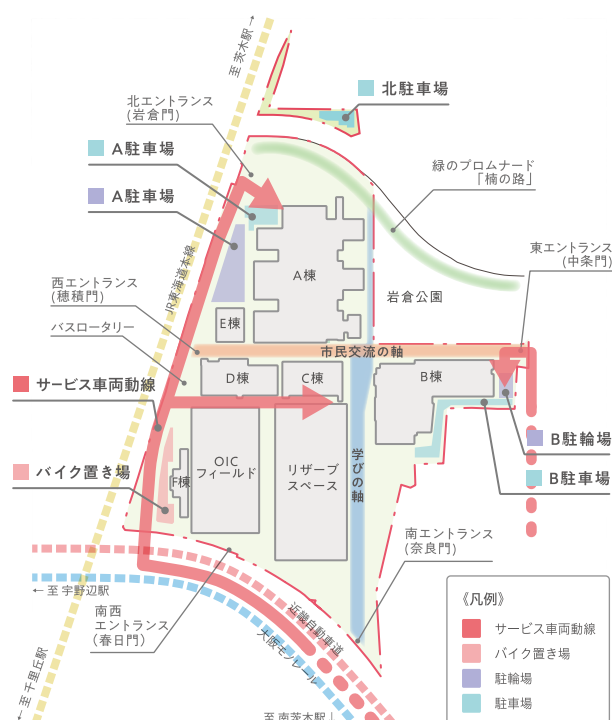
FRAME
WORK
PLAN

2. 交通

基本的に、歩行者・自転車・バイク・一般車両・サービス用車両等の動線を明確にする必要がある。可能な限り歩車分離をはかり、それが困難な場合は、ボンネルフのような適切な歩車共存の方法を講ずることが肝要である。

考え方

- キャンパス内は歩行者優先
- 駐輪場・バイク置き場・駐車場のキャンパス外周部分への設置
- キャンパス内サービス車両動線の集約化



大阪いばらきキャンパスの現状と課題

A 駐車場

- ・屋根の設置要望あり

A 棟

- 3F ・中教室(100名規模)の改修
・無線LANの強化
- 4F ・サブコンコースの開放
・無線LANの強化
- 5F ・グローバル教養学部開設による施設整備
- 7F・8F・PCルームへの転用

C 棟

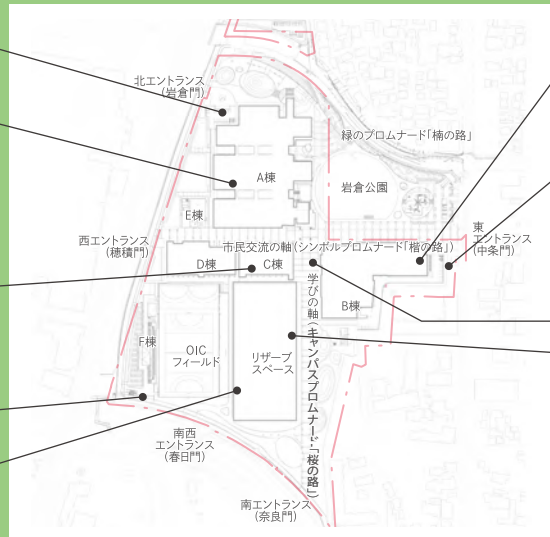
- 1F ・食堂の混雑緩和
- 3F ・セキュリティの強化・改善
(教室のカードキーの設置)

バイク置場

- ・屋根の設置要望あり

リザーブスペース辺側

- ・分林保弘記念国際交流館(仮)建設予定



B 棟 3F

- ・セキュリティの強化・改善
(教室のカードキーの設置)

B 駐輪場

- ・狭隘化

B-C 棟 渡り廊下

- ・鳥が窓ガラスに衝突する
(現在シートを施工して効果検証中)

リザーブスペース

- ・心理・教育相談センター開設予定

今後の検討事項

- ・食堂のキャパシティ課題
- ・空調課題

FRAME WORK PLAN 3. パブリックスペース

大阪いばらきキャンパスには、実践教育の拠点として「街のようなキャンパス」として、多様な出会いから豊かな交流が育まれる仕組みづくりが求められている。パブリックスペースとして、学生の主動線としての「風のコンコース」、コンコースを直行方向に貫く外部空間「緑のチャネル」、使い手によって更新可能なオープンエンドな機能のある「コモンズ」、地域と密接したスペースとしての「ホール」、学生、地域協働での緑化事業を行う「里山」や「ガーデニング」など多種多様なパブリックスペースが整備されている。

考え方

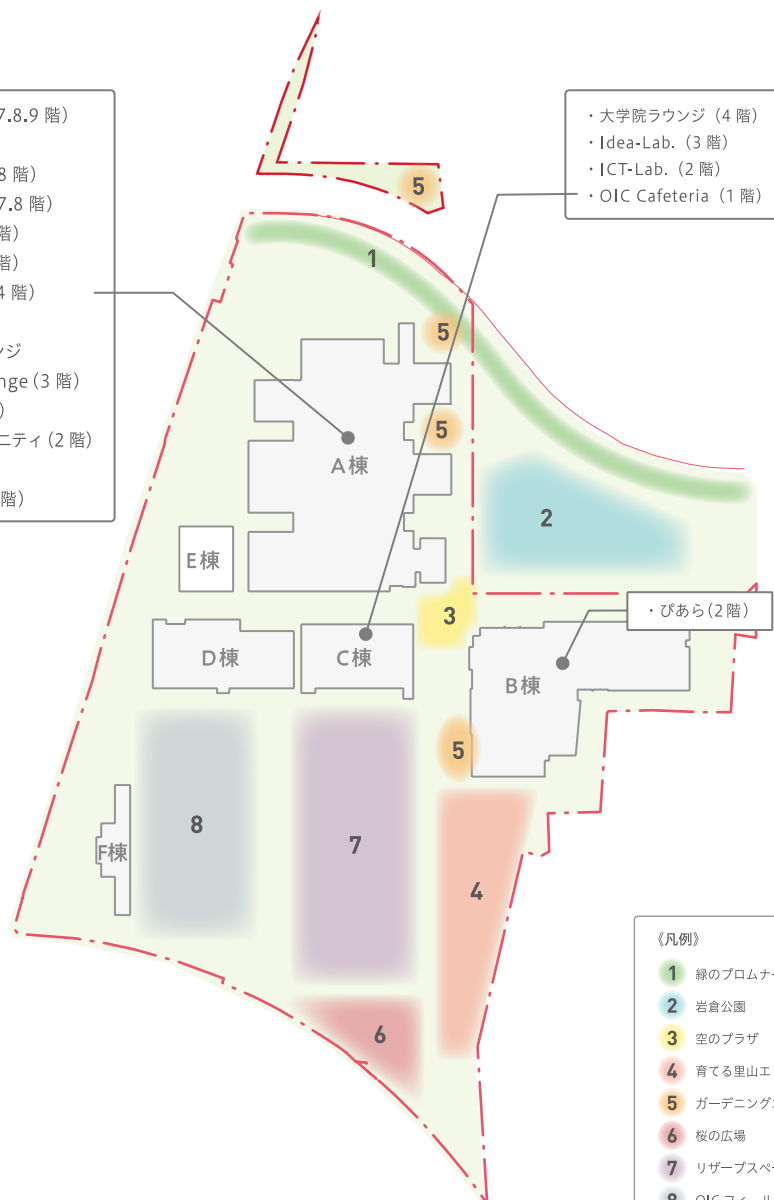
- キャンパス全体をラーニングスペースに
- コモンズの魅力創出と多様化
- パブリックスペースの空間的な序列化



▲ コンコース(A棟2階)

- ・ひらめきラウンジ(6.7.8.9 階)
- ・コリドー(6.7.8 階)
- ・リサーチコモンズ(7.8 階)
- ・ミーティングルーム(7.8 階)
- ・こころばスクエア(6 階)
- ・コンコース(1.2.3.4 階)
- ・サブコンコース(2.3.4 階)
- ・SALL(4 階)
- ・スチューデント ラウンジ
BA-House/PS-Lounge(3 階)
- ・セミナールーム(3 階)
- ・スチューデント コミュニティ(2 階)
- ・Room1~8(1 階)
- ・学習支援コモンズ(1 階)

- ・大学院ラウンジ(4 階)
- ・Idea-Lab.(3 階)
- ・ICT-Lab.(2 階)
- ・OIC Cafeteria(1 階)



《凡例》

- 1 緑のブロードウェイ
- 2 岩倉公園
- 3 空のプラザ
- 4 育てる里山エリア
- 5 ガーデニングエリア
- 6 桜の広場
- 7 リザーブスペース
- 8 OIC フィールド

リーディングプロジェクト

現在、OIC 内で整備が検討されているもの、あるいはマスタープラン上、明確に適切な位置を見つけれないまま暫定的な整備がなされ、あるいは整備が予定されているのは以下の施設である。

リーディングプロジェクトエリア

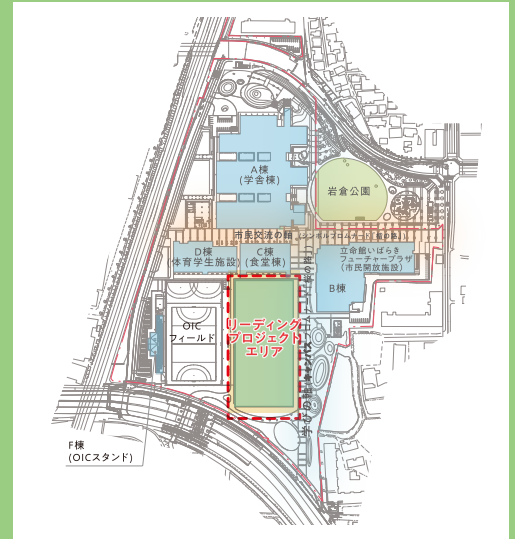
- ▶ サブコンコース
- ▶ リザーブスペース

計画中の整備内容

- ▶ 保育所
- ▶ Beyond Borders Plaza
- ▶ 心理・教育相談センター
- ▶ 分林保弘記念国際交流館(仮称)



▲ 分林保弘記念国際交流館(仮称)の計画中のイメージパース



FRAME WORK PLAN 4. 建築デザイン

OICのキャンパスの外装計画は、公園との一体的な景観作りや、周辺市街地への景観的な配慮に基づき、下記のような考え方で行われている。今後の新築や改装においても、特別な必要性や意図が無い場合には下記の方向性を尊重して、統一感のある、周辺環境に配慮された景観形成を計ることが望ましい。

考え方

- 周辺市街地に配慮した景観形成
- 低炭素化社会に向けた環境共生建築
- 他の2キャンパスとの連続性を考慮した外壁デザイン
- 高層部の圧迫感を軽減する外壁処理
- 低層部における開放的な空間づくり



FRAME WORK PLAN 6. 安全・安心

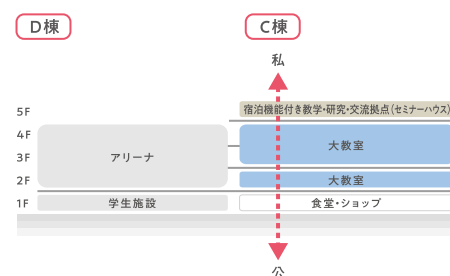
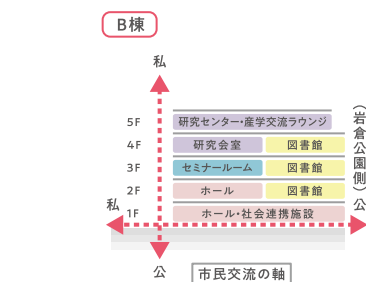
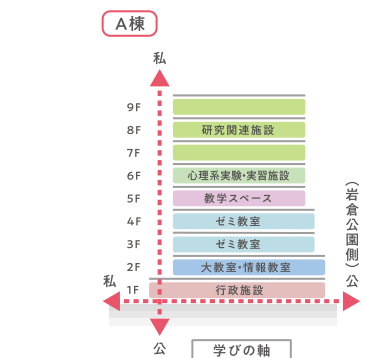
大学は不特定多数の人が訪れる場所であり、安全・安心なキャンパスづくりとともに、誰もが使いやすく快適なキャンパスとして利用できるよう整備することが求められる。

考え方

- ユニバーサルデザイン・バリアフリーへの配慮
- 交通、防災・防犯への配慮
- 災害に強い街づくりへの貢献



▲ 「立命館大学障害学生支援室」作成のバリアフリーマップ



アクションプラン

キャンパス整備におけるファシリティマネジメント

2016～2020年までの短期重点検討課題。
アカデミックプランの検討と関係のある課題。

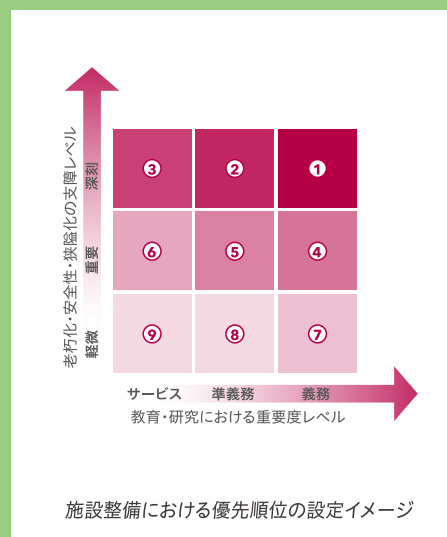
大阪いばらきキャンパス

▶ 新たな教学展開に伴う A 棟 5 階の施設整備



▲ A 棟 5 階の計画中のイメージパース

良好なキャンパス環境の創造に向け、継続的にキャンパス整備を進めていくには、経営戦略や管理・運営面とのすり合わせが不可欠であり、学園全体のトータルファシリティマネジメントの検討が不可欠となる。関連各部局との協力のもと、フレームワークプランを踏まえながら検討を進めることが重要であり、具体的なアクションプランに繋げていくための必要予算の算出や評価基準の設定とのすり合わせなども必要となってくる。

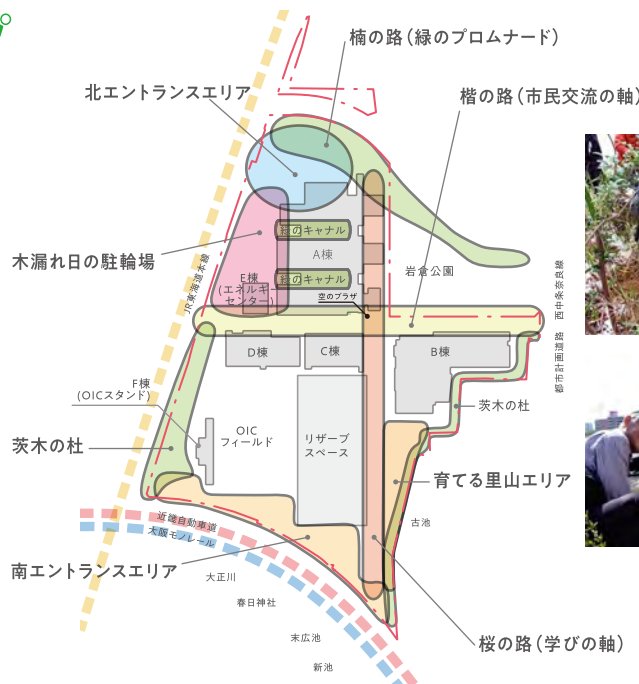


FRAME WORK PLAN 5. ランドスケープ

大阪いばらきキャンパスでは、岩倉公園と一体的に計画されたことから、ランドスケープ（緑地や外部空間）のデザインに関して、公園と大学に跨った入念な検討が行われ、図のようなランドスケープのゾーニングが行われている。今後の改修計画においても、このゾーニングを参考として、各々のゾーンの特徴を強化、促進していくように取り組むことがのぞましい。また、必要性がある場合には、新たな長期的計画と整合させたゾーニングの修正を行うことが望ましい。

考え方

- キャンパスのアイデンティティとしてのランドスケープ
- キャンパス生活の質を向上する緑地
- 都市緑地の一部としての大学キャンパス
- 地域住民が参加してつくるランドスケープ

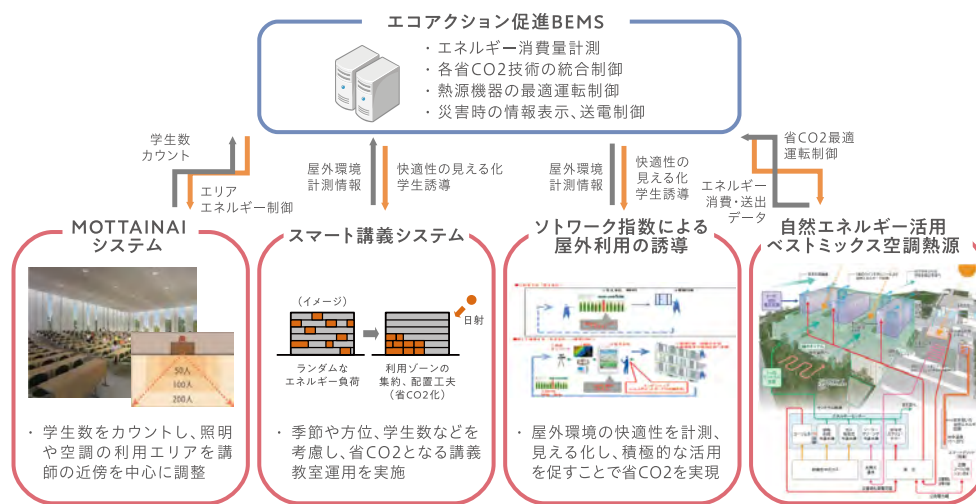


FRAME WORK PLAN 7. 環境配慮

エコアクション促進 BEMS の概要を右図に示す。各システム（エコアクション・熱源・電力）の情報を統合し、より効率の高い運転、施設運用に繋げるようコントロールすることが重要である。

考え方

- ユーザーと環境の関わりを誘発するエコアクション・キャンパス
- 省エネルギー・省資源・循環への配慮



開設後のキャンパス整備実績

(R2020 後半期整備)

2020 年を見据えた学園ビジョン R2020 に基づき、教育・研究・キャンパスライフの質の向上を目指したキャンパス整備を進めています。



▲ A棟6階実験実習室



▲ 定期的な緑地の整備

大阪いばらきキャンパスの沿革

- 2010.11 キャンパス用地として大阪府茨木市のサッポロビール工場跡地の取得決定
- 2010.12 常任理事会の下にキャンパス創造委員会及びキャンパス計画委員会を設置
- 2011.10 「キャンパス創造の基本構想について」で以下を決定
 - 1. キャンパス創造に関する「7つの重点課題」
 - 2. 経営学部及び政策科学部の2015年大阪茨木新キャンパスへの新展開
 - 3. 衣笠キャンパス及びびわこ・くさつキャンパスの再整備計画
 - 4. 大阪茨木新キャンパス基本計画策定の基本方針
- 2011.11 大阪茨木新キャンパス開設準備委員会及び同準備室が設置
- 2011.12 茨木市と「大阪いばらきキャンパス設置に関わる基本協定書に基づく覚書」の締結
- 2012.01 経営管理研究科とテクノロジー・マネジメント研究科の移転・新展開を確認
- 2012.05 大阪茨木新キャンパスの基本設計の到達点と今後の取り組みが報告
- 2012.08 茨木市、茨木商工会議所との連携協定に関する協定書の締結
- 2012.10 OIC開設準備課を設置
- 2012.10 大阪茨木新キャンパスの基本構想(OIC開設準備委員会第1次答申)全学討議・意見集約
- 2012.11 キャンパス計画室を設置
- 2013.03 基本協定書に関する覚書および確認書の締結
- 2013.07 建設工事が着工
- 2013.09 正式名称「大阪いばらきキャンパス(略称:OIC)」に決定
- 2015.04 2学部4研究科、約6,000名の規模で開設
- 2016.04 総合心理学部を開設
- 2018.04 大学院人間科学研究科を開設
- 2019.04 グローバル教養学部の開設を予定している。

学部・研究科と学生数

大阪いばらき キャンパス	経営学部	3,655	経営学研究科	80	テクノロジー・マネジメント研究科	87	学部合計 5,939 人、研究科合計 361 人 OIC キャンパス合計 6,300 人 (2017 年 5 月 1 日現在)
	政策科学部	1,668	政策科学研究科	102	経営管理研究科	92	
	総合心理学部	616					



キャンパス風景



大阪いばらきキャンパスマスタープラン2018 Ver.1 概要版



発行日 2018 年 4 月
 発行 学校法人立命館
 企画・編集 OIC 将来構想検討委員会
 OIC マスタープラン作業グループ
 学校法人立命館 キャンパス計画室 / 学校法人立命館 総合企画課・管財課

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町 1 学校法人立命館 総合企画課
 TEL 075-813-8130/ E-mail: keikaku@st.ritsumeikan.ac.jp

※本冊子は大阪いばらきキャンパスマスタープラン2018Ver.1 の概要版です。詳細な内容については本編をご覧ください。

